

1. 目的：人権やハラスメント事例の理解を深める
2. テーマ：「アンコンシャスバイアスについて考える～ジェンダーの観点から」
3. 講師：人間社会科学部 高島 智世 氏（大学人権委員会委員長）
4. 形式：オンデマンド視聴（期間：11月5日～11月30日）
5. 参加者：幼児教育 9名 美術 4名 ビジネス実務 7名 計26名（参加率 76.9%）
6. 内容：1 日本の実情 ～事前クイズから  
2 差別をなくすために  
3 多様性がもたらすもの
7. アンケート結果より  
参考になった 9名 まあまあ参考になった 10名 あまり参考にならなかった 1名  
(満足度 95%)

#### 〈参考になった理由〉

- ・ここまで大きく女性と男性の違いがあると知らなかった。しかも、性差は私たち自身が創り出しているという事実がショッキングでした。
- ・日本のジェンダー格差の現状をデータで理解でき、無意識の思い込みが行動を左右する怖さを実感した。多様性を尊重することが組織の活力につながるという視点も学び、日々の指導や関わり方を見直す良い機会になった。
- ・自分と違う分野の専門家の話をきくこと自体、とても知的好奇心が刺激されました。多様性の科学、読んでみます。

#### 〈まあまあ参考になった理由〉

- ・知らなかった情報を各種統計データや実験動画等を用いて説明してくれていた。
- ・ジェンダーギャップが、どのような背景、きっかけ、心理的先入観で影響してきたのかを知ることができ今後の自分の姿勢や行動の参考になった。
- ・幼児教育の事例がわかりやすく、なるほどと思うことが多くあった。

#### 〈あまり参考にならなかった〉

- ・ありきたりで少し古い内容が多く、新しい知見が得られなかった。

#### 〈自由記述〉

- ・男女での身体の違いや運動能力など、性差をすべて否定して「同じ」とする必要もないと思います。一方で男女による性格や学習・就労能力の優劣の意識を持ち始めると偏見となるので、自分たちの育ちの中で身につけてきたことに対しては意識的に注意しないといけないと考えます。結局はみんなが他者のことを考え、そして自分のできることを努力して行う、ということに尽きるのだらうと思います。

#### 8. 所感

満足度は、数値的にもコメントを合わせてもとても高く、ジェンダーの観点からアンコンシャスバイアスについて深く考えるよい機会となった。大学人権委員会の高島委員長には心より感謝申し上げます。